

第3学年 国語科学習指導案

研究主題

どの子も自信をもって書くことができる指導法の工夫
～モデル文や文集「練馬の子ら」を活用して～

めざす児童像

- 相手や目的に応じて、書こうとするものの中心を明確にし、段落相互の関係に注意して書くことのできる子
- 自分の思いや考えを書くための材料を意欲的に収集・選択し、進んで書こうとする子
- 書いたことを発表し合い、友達の考えを受け止めて更に考えることのできる子

1. 単元名 れいをあげてせつめいしよう

2. 教材名 食べ物のひみつを教えます

3. 単元の目標

- ◎書くことを決め、調べたことを分かり易く書こうとする。【国語への関心・意欲・態度】
- ◎「はじめ・中・終わり」の段落構成を意識し、つなぎ言葉を適切に使ったり文末表現を工夫したりしながら、調べたことを分かり易く説明する文章を書くことができる。【書くこと】
- ◎つなぎ言葉の役割を知り、文章の中で適切に使うことができる。【言語事項】

4. 評価規準

| | |
|--------------|---|
| 国語への関心・意欲・態度 | ・自分で調べたい食材を選び、調べたことを分かり易く書こうとしている。 |
| 書くこと | ・「はじめ」「中」「終わり」を使った段落構成で文章を書いている。つなぎ言葉を適切に使ったり文末表現を工夫したりしながら、段落相互の関係に注意して、調べたことを分かり易く説明する文章を書いている。 |
| 言語事項 | ・まず、次に、このように、などのつなぎ言葉の役割を知り、文章の中で適切に使うことができる。 |

5. 単元について

(1) 児童の実態 意識調査 (3学年 75名 H24 2月 H25 5月 同7月実施)

| 設問 | 回答項目 | 平成 24 年 5 月 | 平成 25 年 2 月 | 平成 25 年 7 月 |
|---------------------|----------|-------------|-------------|-------------|
| 国語の勉強は好きですか | 好き | 30人 | 33人 | 27人 |
| | まあまあ好き | 30人 | 32人 | 36人 |
| | あまり好きでない | 14人 | 9人 | 9人 |
| 本を読むことは好きですか | 好き | 56人 | 56人 | 63人 |
| | まあまあ好き | 11人 | 12人 | 7人 |
| | あまり好きでない | 7人 | 6人 | 3人 |
| 書くことは好きですか | 好き | 37人 | 43人 | 35人 |
| | まあまあ好き | 23人 | 26人 | 28人 |
| | あまり好きでない | 13人 | 4人 | 10人 |
| 書くことの中で一番好きなことは何ですか | 作文 | 30人 | 32人 | 17人 |
| | 日記 | 15人 | 18人 | 21人 |
| | 詩 | 4人 | 3人 | 9人 |
| | お話づくり | 15人 | 20人 | 20人 |
| | その他 | 3人 | 1人 | 2人 |

◆考察

国語の学習については「好き」「まあまあ好き」を合わせるとほとんどの児童が意欲をもって取り組んでいることが分かった。朝読書の取り組みが定着して、読書好きな児童が多いことと、相関関係がうかがわれる。書くことに関しても、ほとんどの児童が「好き」「まあまあ好き」と回答しているが、「好き」と回答している児童は数名減少している。原因としては、2年生の学習と比較して、伝えたいことの中心や文章の組み立てを考えて書くなど、目標が高度になったことが関係していると考えられる。苦手な児童についても、モデル文で具体的な組み立て方や表現の仕方を示し、指導していくことで、書くことに慣れ、楽しさが分かってくると考える。

◆学年の児童の実態

文章を書くことについては、進んで取り組める児童が多い。10分作文の取り組みなどにより、書くことに慣れている様子がうかがえる。また、「はじめ・中・おわり」の組み立てを意識し、自分の伝えたい内容を考えながら書くことができるようになってきている。これまでに、「読書紹介文を書こう」「報告文を書こう」「手紙を書こう」の単元を通して、文種に合った書き方があること、それを身に付けることで書けるようになることを学んできた。本単元においても、モデル文を用いることで、どの児童も適切な文章表現の仕方を身に付け、書けるようになると思う。書く上で必要な事柄を調べる学習は、3年生にはまだ、主体的に進めることが難しいため、調べる際の負担を減らす工夫も必要である。

(2) 単元設定の理由

本単元では、先行して「すがたをかえる大豆」で「読む人に分かりやすい説明のしかた」を学習している。これを応用して文章を書き、書く力を付ける学習をする。しかし、「すがたをかえる大豆」は長文であり、3年生の段階でそのままモデル文にするのは難しい。そのため、教科書に例文として示された、「すがたをかえる米」をもとにモデル文を作成した。平易なこのモデル文から、「はじめ」「中」「終わり」の段落構成、例を挙げてから説明すること、つなぎ言葉の使い方などを学ぶことで、分かりやすく説明する文章の書き方が具体的に分かり、書けるようになると考え、この単元を設定した。

さらに、共通教材として「すがたをかえる牛乳」、個別教材として自分で選んだ食材についての説明文を書くことで、学習した説明文の書き方を自分のものにするができるようになると考える。

(3) 学習材について

いろいろな食品が、実は一つの食材からできているという発見は、児童の探究心を刺激し、積極的な学習を促すであろう。新しく知ったことを友達や家族に伝えることにも興味を示す時期であり、3年生に合った学習材であると考え。学習した説明のしかたを自分なりに応用し、新しく得た知識を説明することで、書く楽しさを味わうとともに、大きな達成感を得ることができると考える。

6. 主題に迫るための指導の工夫

(1) モデル文の工夫

教科書の「すがたをかえる米」の例文は、段落構成・例を挙げてから説明する言い回しなど、基本的な事項が網羅されている。また、先行する「すがたをかえる大豆」と同じ構成ながら、より平易にまとめられている。しかしながら、食材の特長や価値に触れた言葉や文がない。調べたことを価値付けすることは大切な学習であると考え、モデル文にはこの点を追加した。

(2) マッピングを起点とした取材

調べ学習に先立って、自分が選んだ食材がどのような食品に姿を変えるのか、マッピングを活用してワークシートに書き込ませる作業を行う。これによって、知っていることと、これから調べるべき内容を明確にするとともに、説明文の文章構成を考える材料にすることもできる。食品名、加工の仕方など、何を書けばよいのか、視点を明確にして取り組ませたい。

(3) 総合的な学習の時間との関連

総合的な学習の時間において、練馬大根や大豆の栽培を行っている。また、これらの食材を調理する過程も経験する。実際に食材に触れ、手を加える経験は、本単元の学習に興味を抱くきっかけになり、書きたいという意欲を引き出すことができるであろう。

7. 指導計画（国語全6時間 総合全3時間）

| 次 | 時 | 学習活動 | ☆手だて○指導上の留意点◆評価【方法】 | 総合との関連 |
|----|---------------|--|--|--|
| 1次 | 第1時 | ○分かりやすい説明に必要なことを話し合い、学習課題を知り、学習の計画を立てる。 | ☆前単元「すがたを変える大豆」で学習した事項を想起させる。 ◆学習課題を知り、これからの学習の見通しがもてる。【発言、ノート】 | |
| 2次 | 第2時 (1組本時) | ○モデル文の文章構成や言い回しを調べる。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">モデル文での学習</div> ☆モデル文を拡大して掲示し、組み立てや「使いたい表現」を短冊で提示するなどして、今後の学習に活用する。 ☆『食べ物のひみつマップ』の拡大図を用意し、今後の調べ学習の参考として示す。 ◆モデル文を通して、分かりやすい説明文の書き方を理解できる。【発言、ノート】 | |
| 総合 | 第1時 | | | ○牛乳を加工した食品について調べる。調べたことをマッピング用のワークシートに書き込む。 ☆牛乳について調べるための図書教材を用意する。 |
| 3次 | 第3時 (2組本時) | ○モデル文を参考に、共通の題材で説明する文章を書く。 | ◆牛乳について、モデル文の組み立てや使いたい表現を生かして、説明する文章を書くことができる。【作文】 | |
| | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">共通教材での学習</div> | | |

| | | | | |
|----|------------|---|--|--|
| 総合 | 第2時 第3時 | | | <p>☆自分で調べたい食材を選んで、(麦、とうもろこし、魚、さとうきび等)調べ、『食べ物のひみつマップ』に書く。</p> <p>○調べることの苦手な児童には、どの資料のどこを見て、何を書けばよいか、具体的に指導する。</p> |
| 4次 | 第4時 第5時 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">個別教材での学習</div> | | |
| 6次 | 第6時 | <p>○個別に選んだ食材について、どのような食品にすがたを変えているか調べて、『食べ物のひみつマップ』に書き、それをもとに文章に書く。</p> | <p>☆モデル文で学んだ組み立て、使いたい言葉を確認し、文章に活用する。</p> <p>◆個別に選んだ食材について、モデル文を参考にして説明する文章を書くことができる。【作文】</p> | |
| | | <p>○書いた文章を読み合い、表現のしかたなど、学習したことを共有する。</p> | <p>◆友達の作品の組み立て方や、文章表現の工夫に気付くことができる。【発言、ワークシート】</p> | |

8. 本時の学習 (2 / 7)

3年1組 指導者 小岩 玲子

(1) 目標

◎食べ物のひみつを紹介する文章の書き方について、モデル文を通して理解することができる。

(2) 本時の展開

| 過程 | 学習活動 | ☆手だて○指導上の留意点◆評価【方法】 |
|-----|---|---|
| 導入 | 1. 学習課題を知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 食べ物のひみつを説明する文章の書き方を調べよう。 </div> | |
| 展開 | 2. 米から作られる食品について話し合い、マッピングする。 3. モデル文を読み、説明文の組み立てを調べる。 ・モデル文を六つの小段落に分ける。 ・モデル文を三つの意味段落に分け、そのように分けた理由を話し合い、段落構成をとらえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> はじめ 説明する食材の紹介 中 食品名と加工の仕方 終わり まとめ </div> 4. モデル文に使われている「使いたい表現」をとらえる。 ・つなぎ言葉を抜き出し、その役割について考える。 ・「中」の小段落を比べ、いずれも食品名→加工の仕方の順で書かれていることに気付く。 ・「中」の食品が、どのような順に並べられているかを考え、加工の簡単なものから順に並べられていることに気付く。 | ○すがたをかえる「米」マップをみんなで作る。 ☆モデル文「すがたをかえる米」を提示する。 ☆使いたい表現はあらかじめ短冊にし、取り出して掲示できるようにしておく。 ◆段落構成を工夫したり、つなぎ言葉や使いたい表現を使ったりすると、説明が分かり易くなることを理解している。【ワークシート、発言】 |
| まとめ | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> モデル文で学習したことをもとに、牛乳のひみつを説明する文章を書こう。 </div> 5. モデル文を参考に、共通教材で、食べ物のひみつを説明する文章を書くことを知る。 6. 総合の時間に、牛乳について調べ、『食べ物のひみつマップ』を作ることを知る。 | |

8. 本時の学習 (3 / 7)

3年2組 指導者 石川哲也

(1) 目標

◎「すがたを変える米」のモデル文を活用して、牛乳について説明する文章を書くことができる。

(2) 本時の展開

| 過程 | 学習活動 | ☆手だて○指導上の留意点◆評価【方法】 |
|-----|---|--|
| 導入 | 1. 「れいをあげてせつめいする文」の書き方を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物の名前 ・おいしく食べるくふうと食品名 ・まとめと考えたこと </div> | ☆手だて○指導上の留意点◆評価【方法】 ☆前時に使ったモデル文を参照する。 |
| 展開 | 2. 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> モデル文をもとに、「すがたをかえる牛乳」の説明文を書こう。 </div> 3. 牛乳について調べた『食べ物のひみつマップ』を見ながらモデル文の組み立てと言い回しを使って、例を挙げて説明する文章を書く。 ○モデル文の言い回しを使って、「はじめ」「中」の部分を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・つなぎ言葉を使い、食品の名前を一文で書く。 ・作り方を一文で説明する。 ・同じような作り方をする食品名を、一文で付け足す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <使いたい表現> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、○○です。 ・～して作ります。 ・～すると、○○になります。 ・次に、○○があります。 ・さらに、○○にもなります。 ・○○も、同じようにして作ります。 ・にた作り方をするものに、○○があります。 </div> ○モデル文の言い回しを使って、「終わり」の部分を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・このように～を使って書き始める。 ・自分の考えや思ったことを付け足す。 | ○書き始めは統一する。 ○食品名→作り方の順序で書かせる。 ○調べる過程で、加工の工程が似ている食品が出ていれば、付け足させて、内容を膨らませるように助言する。 ☆前時に取り上げた「使いたい表現」を短冊にして提示する。 ☆どうしても進まない児童には、教師が板書で例文を示し、視写させる。 ○モデル文では四つのつなぎ言葉が使われているが、本時では三つである。調べる食材によって例示する食品の数が変わってくることを押さえる。 ◆モデル文を参考にして、「すがたをかえる牛乳」の説明文を書くことができる。【作文】 |
| まとめ | 4. 書いた紹介文を発表する。 | ○児童の書いた説明文のよいところを共有させる。 |